



## 来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課 課長補佐

古元 重和

(厚生労働省大臣官房厚生科学課長 塚原 太郎 氏挨拶を代読)

塚原厚生科学課長が参加の予定でございましたが、急きょ来られなくなりましたこと、まずはお詫び申し上げます。塚原より挨拶文を預かっておりますので、代読させていただきます。

「第20回研究助成発表・贈呈式の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、これまで約20年間に亘りヘルスリサーチの発展に取り組んでこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆様、そして永井良三先生を始めとする選考委員会の先生方に対し、心より、そのご尽力に感謝を申し上げます。

また、高い倍率をくぐり抜けられ、見事に平成23年度の研究助成を勝ち取られた皆様には、心よりお慶びを申し上げます。

さて本年は、我が国が国民皆保険制度を達成してから、ちょうど50年という記念すべき年であります。近年、医療技術が進歩する一方で、人口は減少し、少子高齢化が進んでいます。生涯の最期をどこでどう迎えたいのか、国民の価値観は多様化し、医療・介護サービスに求められる役割も刻々と変化しております。情報化が進む中、どのような疾患でもインターネットを検索すれば様々な情報が得られる世の中です。このような社会の中で人々はいかに幸せな生涯を送ることができるのか、その追求こそがヘルスリサーチの目的ではないかと考えております。

これまで多くの著名な先生方が、若い頃に本助成を受けられております。このことは本助成事業が、人材育成という意味でも大きな役割を果たされていることを示したものと思います。

今回助成を受けられる皆様は、これからの我が国のヘルスリサーチを、中心となって担っていかれる方々であると期待したいと思います。

最後になりますが、本ヘルスリサーチ助成事業の更なる発展と、ここにお集りの皆様のご健勝をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

厚生労働省大臣官房厚生科学課長 塚原太郎」

本日はおめでとうございました。